

伝える防災、伝わる防災

情報・伝承・メディアの視点から



災害は頻発化・複雑化の一途をたどっています。想定を超える危機が毎年のように日本のどこかを襲う中、被害を最小限に食い止め、一人ひとりの命を救うための最大の武器となるのが「情報」です。しかし、情報が溢れる現代社会において、私たちはその情報を正しく扱い、防災に活かすことができているでしょうか。本講座では、「災害情報」「災害伝承」「災害報道」という3つの視点から、災害と情報の関わりを深く掘り下げます。過去の教訓を学び、現代の課題を整理し、未来の命をまもるために参加者の皆さんと共に考えていきます。

2026.

9/2
(水)

第1回

地域防災における情報リテラシー ～ 確実な避難へと繋げる平時からの備え

講師：生田 英輔

大阪公立大学都市科学・防災研究センター 教授
大阪公立大学大学院現代システム科学研究科 教授

有事に命を守るための適切な行動は、平時から質の高い情報を集め、備えられているかによって決まります。ハザードマップの正しい読み解き方や避難情報の理解など、平時から行うべき効果的な情報との付き合い方を解説します。さらに、災害発生時にタイムラインを意識し、デマや誤情報に惑わされず、自分に必要な事実を見極めるための情報リテラシーの重要性を解説し、共助の為に危機を的確に「伝える」ための基本を学びます。

2026.

9/9
(水)

第2回

地域の文化を次世代に繋ぐ ～過去に学ぶ災害の教訓と事前災害伝承の取り組み

講師：増田 裕子

大阪市淀川区新東三国地域活動協議会 副会長
大阪公立大学都市科学・防災研究センター 客員研究員

2012年の災害対策基本法改正により「災害教訓の伝承」が法制化され、住民が教訓を語り継ぐ努力や、行政の防災意識向上の責務が明記されました。本講座では、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震の事例を検証するとともに、大阪市内の自然災害伝承碑についても解説します。これらの教訓を踏まえた上で、日本中に数多く存在する未災地(まだ大きな災害を経験していない地域)における、『事前災害伝承』の取り組み事例を紹介し、地域に根ざした災害文化の新たな可能性を学びます。

2026.

9/16
(水)

第3回

地域防災につながる情報とは？～地域とメディアの 連携による地域密着の情報発信とその活用

講師：大山 武人

NHK神戸放送局コンテンツセンター副部長(アナウンス)
大阪公立大学都市科学・防災研究センター 客員研究員

平常時から災害時まで、メディアや自治体などから地域に向けて様々な情報が発信されます。そうした情報を、避難や備えなど、実効性のある地域防災につなげるためには、どのような発信や活用が求められているのでしょうか？過去の様々な災害の経験を受けて改善が進められてきた情報発信について、2つのキーワード「地域密着」「地域連携」をもとに、地域防災での活用を考えます。

会場

大阪公立大学文化交流センター
(大阪市北区梅田1-2-2・600 大阪駅前第2ビル6階)

定員

120名(先着順)

申込方法

本学Webサイト または 右の二次元コード からお申し込みください

申込締切

2026. 8/30 (日)

時間

18:30～20:00
(3回とも)

受講料

1,500円(全3回分)



大阪公立大学 公開講座

※感染症の流行や自然災害等の影響により、日程・開催方法・開催内容等が変更となる場合があります。

※お申込みの際の個人情報は、申込後の事務連絡、統計資料等の作成および本学公開講座等のご案内に使用いたします。利用目的以外の使用については、一切いたしません。

【問い合わせ先】

大阪公立大学都市科学・防災研究センター
TEL: 06-6605-2071
E-mail: gr-shak-kouza4c@omu.ac.jp